

滋賀県立高等学校再編計画（案）説明会 意見概要
<ひこね市文化プラザ>

- 日 時 平成24年(2012年)10月17日(水) 19:00~21:00
- 場 所 ひこね市文化プラザ（保護者対象:参加者42名）
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

- 再編計画において、第一に子どもたちのことを考えるというのは本当か。定時制の計画は、計画原案に比べれば良くなっているが、なぜ統合が必要なのか、統合の目的を示してほしい。
- 彦根西高校と長浜北高校の跡地はどうするのか。なぜ8億円もかけて統合を進めるのか。耐震補強で済むのではないか。建設業界から圧力でもあるのか。
- 学校を大規模にして、教育効果が上がるという科学的根拠はあるのか。
- 計画原案では適正規模が6~8学級だったが、なぜ計画案で彦根新校は9学級となったのか。
- 全国的にも9学級の総合学科はない。彦根翔陽高校を想定して8、9学級の運営が可能と考えているのか。
- 定員を彦根新校に集中させるのではなく、彦根市内や湖東地域の他校に定員を分散させれば良いのではないか。受検生側のニーズをはかっているのか。
- 彦根新校増築校舎の建築費の試算を、彦根西高校と彦根翔陽高校の耐震補強をする場合と比較して示してほしい。
- 彦根新校の各系列の人数は、何学級ずつにしようとしているのか。
- 総合学科の中で、家庭系列2学級規模をどのように確保するのか。2学級分の生徒がいらないから止めたでは適当な話である。
- 彦根市の声を反映されたのは成果だが、9学級では学習環境が悪化する。増築が繰り返され、渡り廊下は真っ直ぐでない状況。総合学科の教員は忙しいが、9学級規模に見合う教員数に増やしてもらえるのか。1学年全員が入れる教室、体育館、自転車置場、職員室も確保する必要がある。
- 2年間3校が一緒になると、制服はバラバラ、彦根翔陽高校は2学期制で彦根西高校は3学期制であるが、どうするのか。慌てて彦根翔陽高校を3学期制にしてほしくない。統合は反対ではないが、計画案を見て心配が増えた。
- 高校生は、まだ環境に左右される年代。親としては3校が一緒に大丈夫かと思う。これまでにそのような経験があれば、どのような状況か生の話も聞かせてほしい。
- 家庭科は伝統を引き継ぐと言うが、彦根西高校で4年目となる「学びの共同体」はどう引き継ぐのか。
- 計画案に書かれている彦根新校での高大連携は、具体的に話ができているものか、目標であるのか。
- 湖東地域はもともと普通科の比率が低い。総合単位制となる能登川高校は普通の普通科ではない。学年制でもクラス単位でもない。普通に1~6時限の授業を受けて、部活動をしたい子どもたちにとっては、選択肢が狭くなる。普通の普通科へ行きたい生徒はどうするのか。
- 彦根東高校の定時制廃止で、なぜ能登川高校へ定時制をもって来るのか。

- 工業学科の再編について、学科を細かく分けるほうが、子どもたちが勉強する上で、仕事や将来について考えて勉強できると思う。
- 工業学科の各校で情報電子科が消えているが、電気科で学ぶのか、または総合学科で学べということなのか。
- 機械と電気は各校にあるが、化学工業と建築・建設は学校間で割り振られる。彦根市在住者が化学工業を学びたい場合は瀬田まで、建設を学びたい場合は北まで行けというのか。
- 地元で大手企業が多く、工業高校への求人も多い。学級が減ると、産業界のニーズに応えられないのではないか。どのような調整がされているのか。
- 企業ではコミュニケーションが取れ、元気があり、生き活きとした高校生が産業を支えることを望んでいる。そんな高校生を生み出す学校が必要だと思う。
- 長浜に新校舎が建つが、この設備投資は、他の学校へも投資をしていくことの表れと考えてよいか。
- 再編計画を本年中にまとめるとのことだが、そんなに焦る必要があるのか。
- この計画案では、親が子どもに説明できない。説明できる資料を作ってほしい。
- 彦根市PTA連絡協議会から要望を出して、このような会が設けられたことは成果だと思うが、回答が事前にほしかった。
- 中高一貫教育校の県立河瀬中学校には給食がない。彦根市では、彦根市内のすべての中学校で給食を考えているところである。中学の給食設置は努力義務となっているのではないか。